

# 平成23年度生活科教育にかかわる現状と課題

部長 小嶋 美江子

## 1 生活科教育の動向

○ 糸魚川市立田沢小学校では、「豊かにかかわり 自分を見つめ よりよく生きる子どもをはぐくむ」を研究主題に掲げ、11月9日(水)県小教研指定研究(2年次)中間発表会を実施した。生活科では1年「あそびにいこうよ」の授業公開を行い、児童が対象に豊かにかかわりながら学習を深めていく指導の在り方について以下の4視点から探った。

- (1) 気付きの質を高める教師の支援
- (2) 繰り返し対象とかかわる場の設定
- (3) 振り返る場の設定
- (4) 体験と言語活動の関連

○ 11月17日(木)長岡市立六日市小学校で、新設された内容(8)の「生活や出来事の交流」を受け、1,2年生合同で「『私の町 大すき』～町のはっぴょう会～」の公開授業を実施した。

○ 11月30日(水)燕市立燕南小学校では、1年「あそびランドにようこそ」の授業公開を行い、「子どもの思いが深まったかどうかの教師の見取り」「子ども相互のアドバイスが有効に働く場面」について協議が深められた。

○ 12月2日(金)柏崎市立柏崎小学校では、1年「いきものだいすき! ヤギの冬越し大作戦」の公開授業を行い、ヤギ飼育の体験を通して、命の尊さや命のつながりをどう子どもに捉えさせるか熱心な協議が行われた。

○ 新発田市立紫雲寺小学校では、1年「かぜであそぼう」の公開授業を行い、ねらい達成の手立て4点(活動の見通しと意欲を持たせる見本の提示、材料の充実、レース場の設定、工夫共有の場の設定)で協議を深めた。

## 2 生活科教育の課題

各郡市では新学習指導要領の趣旨実現に向け、実践が進められている。さらに以下の視点で授業の充実・改善に努めたい。

- 「体験活動と言語活動をつなぐ単元構成」や「子ども相互の交流や気付きをつなぐ支援の在り方」など気付きの質を高める手立ての工夫
- 理科の「科学的な見方・考え方」の基盤作りとして、自然の不思議さやおもしろさを実感させる指導計画の工夫改善
- 幼・保・小との円滑な接続を図るためのスタートカリキュラムの工夫